

就労移行支援事業所連絡会

～9月定例会～

9月9日(木)開催

9月の就労移行支援事業所連絡会（以下、連絡会）は、新たに“きずなの翼”さんをお迎えし、開催いたしました。主に8月25日開催『～就労支援にかかわる方々へ～グローアップ研修（以下、グローアップ研修）』の振り返りをし、下半期の連絡会の運営についても打合せしました。

以下、内容を抜粋して記載いたします。

○グローアップ研修の振り返り

先月開催に至ったグローアップ研修に関する振り返りを行い、下記のような感想が聞かれました。

- ・対象者との面談について、研修を受けて支援員の足並みを揃えるために面談の仕方を見直す必要があると思った。
- ・今後、“現場での関わり⇒研修で再確認・学び⇒実践”という流れができそう。
- ・一般企業で働いていた経験から“仕事の切り出し”はとても労力がかかるものだと感じる。その点に関する企業交渉の内容を聞いて良かった。
- ・実践に近いロールプレイを研修の場で行って失敗して身につくこともある。
- ・今回のような（同地域で就労支援にかかわる多職種がともに学ぶ）研修が半年に1回ペースであると良い。



○下半期の活動について

今年度の取り組みとして年度当初に掲げていた、「事業所見学会」は7月からスタートを切り、支援員向け研修も無事に終えることができました。先月末からの緊急事態宣言の発令や、それに伴う各事業所の活動の変化などもあり、改めて下半期以降の活動について、意見を出し合いました。

その中で、「コロナ禍ではあるが、ここまで続けている連絡会の動きを止めずに行きたい」という意見、「リーダースタッフに限らず支援員が気軽に参加して交流できる場」を望む声が多く、以下の2点が決まりました。

- ①見学会は、当初の感染対策や参加人数の調整を継続し、1事業所1回に規模を縮小する。
- ②学習会は、担当事業所がその月のコンセプトを決めて企画することで、より自分達の学びたいことに主体的に取り組めるようにする。



○後記

グローアップ研修の振り返りから、研修内容について各事業所の満足感が高かったことが伺えました。かねてより機会があれば各事業所の皆さまにご意見をいただき、就労支援に関する研修内容についての議論を重ねてきたことが反映できたのではないかと感じます。今回の研修が単発の学びの場として終わることなく、より効果的な連携や対象者支援につなげていくために、同地域の関係機関との連携や意見交換をこれからも大切にしていきたいと思えます。

今後は、担当事業所が学習会と見学会を運営することにより、自分達の学びを自らで企画する内容へとステップアップしていきます。ここまで主にリーダースタッフが集まり形を作っていた連絡会が、人材育成にもスポットをあて、各事業所のスタッフが幅広く参加できる会へと発展していきます。

緊急事態宣言発令中で、活動制限や自粛の目処が立たない状況下ではありますが、下半期も前向きに活動を継続していきます。

担当：荻原・増田